

## ワクチンまとめ

出水総合医療センター院長 花田法久

新型コロナウイルス感染症対策として期待が集まっているワクチン。市民講座でお話しした内容に加えて、新しい情報も含めてお知らせします。

日本で最初に接種が始まる予定のファイザー／ビオンテック社のワクチンを念頭に、以下に情報提供します。

**Q：新型コロナウイルスワクチンは効くか。**

A：効きます。

有効率は95%以上、発症リスクは、10分の1以下になります。インフルエンザワクチンより明らかに高いです。

**Q：新型コロナワクチンの副反応について教えてください。**

A：局所の疼痛の頻度が70～80%台と高い、持続時間は1～2日程度。

全身副反応は、倦怠感、頭痛、寒気、嘔気・嘔吐、筋肉痛などがみられることがあります。通常1～2日で軽快します。

CDC（米国疾病対策センター）など公的機関から示されている情報を見る限りでは「許容できるものが主」。このワクチンは短期成績を見る限り、安全であると言って問題ないと思います。

治療が必要になったり、障害が残ったりするほど症状が重いケースは極めてまれですが、副反応が起きるリスクをゼロにすることはできません。

**Q：アナフィラキシー（重症のアレルギーと思ってください）について**

A：アナフィラキシーの報告があります。

ファイザーは189万回接種した中で21件。確認できた人は全員回復しています。割合から言うと出水市に一人はいない割合です。過去にアナフィラキシーを起こした人には接種を勧めません。

**Q：新型コロナワクチンは接種した方がいいのでしょうか。**

A：国は、接種勧奨・努力義務を原則としています。正しい情報を正しく理解して、自分で決めないといけません。以下、考え方を示します。

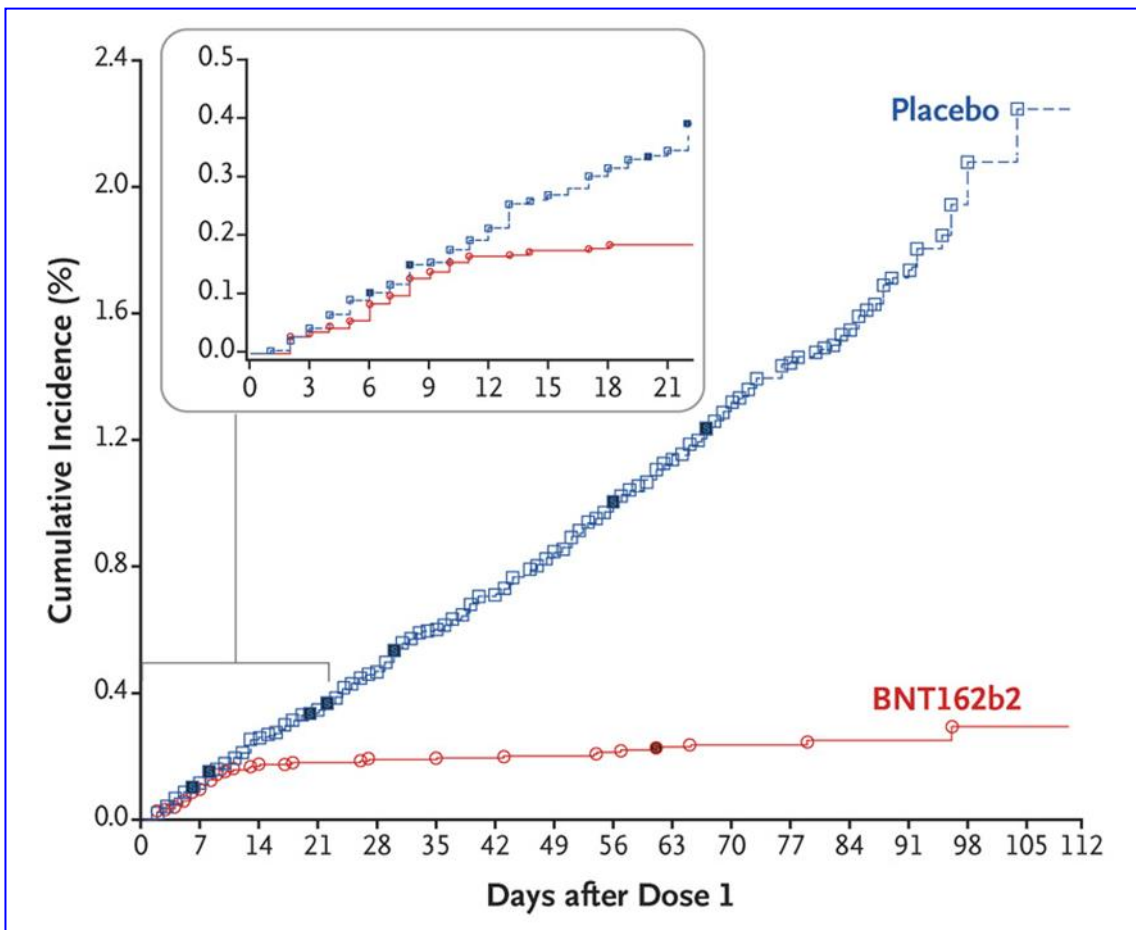
ワクチンで予防できる病気は全て予防接種で防ぐというのが世界の原則です。

ワクチンのメリットは、感染を予防できること。病気の重症化や後遺症の発生、死亡を防げること。多くの方が予防接種を受けることで集団免疫ができ、新たな感染者を減らせることです。今回の新型コロナウイルスワクチンが、これら全てに効果があるかは分っていません。新型コロナウイルス感染症の発症予防効果はあります。

ワクチン接種は、健康な人が病気にかかることを予防する効果というメリットと、副反応というリスクを比較することになります。病人が薬を飲むのと大きく異なるわけです。

1月22日までに、世界では3,883万回ほどの新型コロナウイルスワクチンが接種されています。接種後死亡した報告はありますが、これまでワクチンとの因果関係が明白な死亡事例の報告はありません。

世界各国でワクチン接種が進む中、日本でも2月下旬からワクチン接種が始まる見通しです。出水でも3月には開始できるよう関係各所と協議中です。ワクチン接種による集団免疫の獲得は、新型コロナの感染拡大を抑え込む上での鍵となります。ワクチンのメリットとリスクを考えた上で、納得し、接種を希望する人に、安全に、速やかにワクチンを届けられるようにしたいと考えています。



「18歳から85歳の約4万例」を半分に分けて「ワクチンあり」「なし」として、普通に生活してもらって、自然に感染するかどうかを「観察」した結果です。ワクチン群は、最初の接種後12日目くらいから、ほとんど感染者が増えていませんが、生理食塩水を接種した群では、一定の割合で感染者が増え続けており、有効率は95%でした。

